

本資料は 11 月 3 日にスイスで発表されたプレスリリースの日本語抄訳版です。
詳細な情報は下記より英語原文をご覧ください。
<https://bit.ly/36bknnq>

アデコ 不確実な環境でも業績が堅調 2020 年度第 3 四半期は収益性と粗利率が向上

[2020 年 11 月 3 日 スイス・チューリッヒ]

2020 年第 3 四半期サマリーとハイライト

- 本四半期が進むにつれて全体的に業績が改善し、営業日数調整後の既存事業売上高¹は前年同期比 15% 減、報告ベースでの既存事業売上高は前年同期比 18% 減となった。四半期が進むにつれ広い範囲での改善を見せた
- 9 月の既存事業売上高および営業日数調整後の売上高は前年同期比 14% 減、10 月はさらに漸進的な改善を見せる
- 粗利率は、リー・ヘクト・ハリソンのキャリア移行支援事業の堅調な業績、確実なプライシング、Covid-19 の影響の軽減が寄与し、前年同期比 20bps 増の 19.6% となった
- 一時的要因を除く²EBITA³ 利益率は 4.5% と回復力があり、堅調かつバランスのとれたポートフォリオとアジャイルなコスト管理が寄与し、既存事業での回復率は 64% となった
- 現金流動性とバランスシートは強固で、キャッシュコンバージョンは 153%、一時的要因を除く EBITDA 純有利子負債倍率は 0.5x
- 2020 年度第 3 四半期の組織の再編成にかかる費用は、主にドイツでの事業の変革と不動産の合理化により、8,900 万ユーロ
- アデコグループの戦略的優先事項が進行し投資も継続

アデコグループ CEO のアラン・ドゥアズは次のようにコメントしています。

「第 3 四半期は厳しい市場環境が続きましたが、ロックダウンが緩和され、企業活動は徐々に回復してきました。不確実性のなかでも、われわれは危機をうまく乗り切ることができました。働く人々の健康と安全を第一に考え、変化していく顧客のニーズに応え、危機が底を打ってから約 15 万人のアソシエイトの職場復帰を支援しています。

当社の事業の規模と幅広さ、そして積極的なアカウント管理アプローチにより、電子商取引や物流などの分野における需要の増加から利益を得ることができました。全体的には減収となりましたが、確実なプライシングとアジャイルなコスト管理を実施した結果、収益性は堅調に推移しました。当社が構築したバランスのとれたポートフォリオが引き続き差別化要因となっており、リー・ヘクト・ハリソンは 2 桁成長を達成しました。また、アウトソーシング事業、コンサルティング事業、アップスキル・リスキル事業は、従来の人財派遣事業や人財紹介事業よりも高い回復力を持っています。キャッシュフローは引き続き重視しており、本四半期も好調でした。

当社は、「Perform, Transform, Innovate」という戦略に引き続きフォーカスしています。IT インフラとデジタル製品への最近の投資がこの危機を支えたことは明らかであり、当社は長期的な変革と製品開発のロードマップに沿って、新しい技術とツールの開発および展開を続けています。



先を見据えたとき、急速に変化する Covid-19 の状況を考え、回復は不安定なものになると覚悟しています。多くの不確実性が存在しますが、われわれはこのような激動の時代を乗り切る自信を持っており、戦略的優先事項にフォーカスすることで、危機からより強く立ち上がることに焦点を当てています。アデコグループは、必要不可欠なサービスの提供者として、経済の回復や働く人々の職場への復帰を支援する重要な役割を担っています。

われわれを信頼してくださっている顧客の皆さまに感謝するとともに、従業員やアソシエイトの努力、忍耐力、粘り強さに深く感謝します。」

*1：既存事業売上高とは米国会計基準以外の基準で、為替変動、M&A、事業部売却の影響を除く

*2：2020 年度第 3 四半期の EBITA は、一時的要因 8900 万ユーロを含む；2019 年度第 3 四半期の EBITA は、一時的要因 1600 万ユーロを含む

*3：EBITA は米国会計基準以外の基準で、償却前営業利益、のれん、および無形固定資産の減損を含む

< 主な数値 >

2020 年度第 3 四半期の損益計算書情報のサマリー

| 単位： 100 万ユーロ | 2020 年度 第 3 四半期 | 2019 年度 第 3 四半期 | 変化率(%)： 報告数値 | 変化率(%)： 既存事業成長率 |
|-------------------------|--------------------|--------------------|-----------------|--------------------|
| 売上高 | 4,835 | 5,898 | -18% | -15% ⁴ |
| 売上総利益 | 949 | 1,146 | -17% | -14% |
| EBITA 利益 (一時的要因を除く) | 220 | 288 | -24% | -19% |
| EBITA 利益 | 131 | 272 | -52% | -52% |
| 当期純利益 | 80 | 179 | -55% | |
| 希釈 EPS (ユーロ) | 0.49 | 1.10 | -55% | |
| 粗利率 | 19.6% | 19.4% | 20bps | 40bps |
| EBITA 利益率 (一時的要因を除く) | 4.5% | 4.9% | (40)bps | (30)bps |
| EBITA 利益率 | 2.7% | 4.6% | (190)bps | (180)bps |

2020 年度第 3 四半期のキャッシュフローおよび純負債情報のサマリー

| 単位： 100 万ユーロ | 2020 年度 第 3 四半期 | 2019 年度 第 3 四半期 |
|---|--------------------|--------------------|
| 利払いおよび納税前のフリー・キャッシュフロー ⁵ (FCFBIT) | 167 | 211 |
| フリー・キャッシュフロー (FCF) | 110 | 137 |
| 純有利子負債 ⁶ | 462 | 1,244 |
| 未払い日数 | 51 | 53 |
| キャッシュコンバージョン ⁷ | 153% | 84% |
| EBITDA への純有利子負債 ⁸ | 0.5x | 1.1x |



THE ADECCO GROUP

*4：2020年度第3四半期の既存事業の売上高の成長は前年同期比15%減、営業日数調整後でも15%減。2020年度のこれまでの9カ月間の既存事業の売上高は前年同期比17%減、または営業日数調整後で18%減。

*5：フリー・キャッシュフローは米国会計基準ではない尺度で、営業活動からのキャッシュフローから設備投資を控除したもの

*6：純有利子負債は米国会計基準以外の基準で、短期および長期の借入金から現金、現金同等物、および短期投資を控除したもの

*7：キャッシュコンバージョンは米国会計基準以外の基準で、直近4四半期のFCFBITを、一時的要因を除いた直近4四半期のEBITAで割ったものを四捨五入して計算

*8：EBITDAへの純有利子負債は米国会計基準以外の基準で、期末時点での純有利子負債を一時的要因と減価償却費を除いた直近4四半期のEBITAで割ったもの

2020年度第3四半期の日本の状況

2020年度第3四半期の日本での売上高は3%増、または営業日数調整後で4%増の3億7700万ユーロで、プロフェッショナル・スタッフィング事業とソリューション事業が引き続き成長しました。人財紹介事業の売上高は前年同期比38%減となりました。EBITAは2800万ユーロ、一時的要因を除くEBITA利益率は、営業レバレッジと粗利率の成長により、前年同期比60bps増の7.4%となりました。

【本件に関するお問い合わせ先】

アデコ株式会社 広報部

Tel. 050-2000-7024